

書名 項目		新しい道徳 番号 2 会社名 東京書籍
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○内容項目別の一覧表が配置され、どの教材で学ぶのかが一目で分かるようになって いる。 ○自己評価用紙が設けられ、学期ごとに学習の記録を残しておくことができる。 ○さまざまな人物が取り上げられている。 ○補助教具として「心情円」があり、考えたり思ったりしたことを可視化できる。
特色	内 容	<現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○全学年で「いじめ」「いのち」について、複数教材を組み合わせたユニットが配置され、多角的・多面的に考えることができるようになっている。 ○各学年で情報モラルに関する教材を配置し、SNSでのいじめなど新しい情報モラルの問題を取り上げている。 ○人権、福祉に関わる社会の働きを取り上げ、人権を尊重する態度を養えるよう配慮されている。 <発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○1学年「郷土」、2学年「国」、3学年「国際理解」と、段階を経て考える範囲が広がるよう工夫されている。 ○各学年冒頭「道徳の授業はこんな時間に」で学習の流れのポイントを示している。 <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○巻頭の「話し合いの手引き」の折り込みを開いた状態にし、それを見ながら話し合いが進められるよう工夫されている。 ○2時間扱いの問題解決的な学習を配置し、道徳的価値について考えることができるように配慮されている。 ○「アクション」としてグループエンカウンターやモラルスキルトレーニングを配置し、役割演技などの体験的な学習ができるようになっている。 ○各教材に「つぶやき」コーナーを設置し、教材を読みながら考えたり思ったりしたことを書き込めるようにしてある。
	資 料	○写真を大きく掲載し、迫力あるものとなっている。 ○5行ごとに行番号が配置され、指示を出しやすくなっている。 ○巻末の自己評価用紙を切り取り、学期ごとに提出できるようになっている。 ○各教材をテーマで分類するページが設けられている。 ○「橋の上のおおかみ」を掲載し、小学校道徳との連携が図られている。
	表記・表現	○一般的な書体より少し太いUDフォントを採用している。 ○マンガ教材を取り入れ、教材に親しみやすいよう配慮されている。 ○会話文や設問「考えてみよう！」の文では、文節での改行がなされ、読み間違いが起きにくくなっている。
総 括		○各学年30教材（35時間扱い）が配置され、更に付録に5教材があることで補充、深化を図ることができる。学年ごとに重点項目を設定し、複数の教材で繰り返し学習できるように配慮されている。また、複数の内容項目が設定された教材が配置されている。教材冒頭に関連する教科のマークが記されており、他教科との連携が図りやすくなっている。

教科（ 道徳 ）

書名 項目		輝け 未来 中学生 道徳 番号 1 1 会社名 学校図書
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○内容項目ごとに「心の扉」が設置してあり、生徒の道徳的価値理解のための視点が明確に示されている。 ○「指導内容の重点化」に対応する複数教材を設置し深い価値認識をねらっている。 ○夏休み、冬休みを挟む三つの期間で学びを振り返るページがある。また、巻末ではこれからの自分を考えるページがあり、一年間の成長がわかるようになっている。
特色	内 容	<現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○「いじめ」、「情報モラル」、「防災」、「社会参画」、「国際理解」、「社会の持続可能な発展」、「伝統と文化」、「生命の尊厳」、「よりよく生きる喜び」など、多彩な教材で現代的な課題に迫ることができるようになっている。いじめ防止では、直接教材、間接教材で、いじめを「起こさない」「許さない」断固たる心情を育てることをねらっている。 <発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○学年を追って発問内容や、22の内容項目の道徳的価値に焦点化した「心の扉」の記載内容を深化させていく配慮がなされている。また、教材と併せて自分自身のものの見方や考え方を深めていけるようにしている。 <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○教材ごとに自己を見つめ、自分の考えを深めるための振り返り「学びの記録」の欄がある。それらは夏休み、冬休みを挟む三つの期間に区切られており、それぞれの期間の学びを振り返ることができるようになっている。 ○教材を通して自ら課題意識をもち、多面的・多角的に深く考えるため、発問「学びに向かうために」が設けられている。発問は学習を焦点化するとともに、基本（課題に注目する）→中心→後段の流れをわかりやすく示している。 ○「考え、議論する」活動を組み合わせて、「問題解決的な学習」「体験的な学習」を発問の中に取り入れ、独立した『型』にこだわらず、多様な学習を通して考えを深めることができる。
	資 料	○まんが、新聞、図表、詩や写真などを多用し、生徒に訴えかける紙面づくりをしている。 ○自我関与の教材＋体験的な学習、問題解決＋自我関与の教材など、『型』にこだわらず、色々な学習展開を設定し、道徳的諸価値を深められるようになっている。 ○巻末に「保護者の方へ」のページがあり、家庭との連携もねらっている。
	表記・表現	○文字はUDフォントを使用し、字間も適度に空いていて読みやすくなっている。 ○4つの視点ごとに色分け・マーク化がされている。また、各教材の最後には授業の発問や流れがわかる活動のマークがある。 ○深く考えてもらいたい重要な現代課題などを10のポイントマークで示している。
総 括		○教材ごとに記入できる「学びの記録」欄が設けられており、学期の終わりや一年間の学習の後などに自分自身の心の変化や成長を感じることができる。22の内容項目の道徳的価値に焦点化した「心の扉」を置き、教材と併せて自分自身のものの見方や考え方を深めていけるようになっている。文字が大きく、マークなども工夫されており、わかりやすく示している。

書名 項目	中学道徳 とびだそう未来へ 番号 1 7 会社名 教育出版
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○主体的・対話的で深い学びを実現するために、学習の流れとポイントを分かりやすく表現している。教材の導入部で生徒が学習の方向を意識する問いが設けてあり、対話的な授業を作ることができるようになっている。 ○教材の導入と学びの道しるべには、学習前後の考えを心の変容を生徒自身が実感できるよう工夫している。
特 色	内 容 <現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○全学年を通して「生命の尊さを考える」「いじめや差別のない社会に」「情報とよりよく付き合う」の3項目を重視し、多角的・多面的に考えることのできる教材を複数掲載している。また、いじめを直接的に扱っている教材は学期をまたいで繰り返し考え、学びを深めていけるよう配置を工夫している。 <発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○生徒にとって身近な設定の教材を掲載することで、発達の段階に応じて生徒が切実感をもって考えられるような工夫をしている。 ○「生命の尊さ」を重点項目として各学年に2～3教材、「社会参画、公共の精神」を扱う項目を各学年3教材掲載し、内容の系統性を持たせている。 ○学年の発達段階に応じて1年では、Aの視点を手厚く扱い、学年が上がるにつれてB、Cの視点の教材を増やしていく構成になっている。 <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○教材を通してどんなことを考えていくのか意識づけをする問いが記載されており、学習のねらいを明確に把握させることができる。教材内容にふさわしい問いを3つ掲載している「学びの道しるべ」を活用することで、道徳的価値の理解を深めることができるようにしている。 ○道徳的行為に関する体験的な学習に適した教材には「やってみよう」が設けられており、役割演技等の体験的な学習の活動例が掲載されており、生活の中での行為や習慣に結びつけていくことができるようになっている。 資 料 ○歴史や文化、スポーツなど様々な分野で活躍した人々を取り上げた教材、定番の教材、現代の問題を扱った教材がある。学校行事と関連させて指導できる教材がある。全学年の巻末にすべての都道府県から活躍した人物とその言葉を掲載している。 ○教材の場面にあった大小様々な写真、挿絵、漫画形式の資料などを掲載していて落ち着いた色彩を使用している。 表記・表現 ○小学校からスムーズに移行できるように、1年の前半部の教材本文は、大きい文字を使用している。文章の改行位置を工夫し、内容を理解しやすくしている。 ○学習指導要領に示されている4つの視点ごとに教材の色を変え、マークで示している。また、難解な言葉を脚注で解説している。
総 括	○教材内容にふさわしい問いが3つ掲載されている「学びの道しるべ」を活用することで、道徳的価値の理解を深めることができるようにしている。各学年の巻頭にはオリエンテーションのページが、巻末には振り返りのページが設けられており、これらを活用することで自分の成長を実感し、これからの課題や目標を見つけられるようになっている。

教科（ 道徳 ）

書名 項目		道徳 きみが いちばん ひかる とき 番号 38 会社名 光村図書
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○「学びのテーマ」が設定され、考える観点を明確にし、理解を深めることができる。 ○「つなげよう」では生徒の学校生活に即した発問や言葉があり、生徒自身が自分の生活を振り返って考えることができる。 ○各学年の冒頭で「考える道徳」に向けたガイダンスが設けられており、自分との「対話」や他者との「対話」を通して学ぶための具体例が示されている。
特色	内 容	<現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○「いじめ」「情報モラル」「共生」「社会参画」「環境」「国際理解」という現代的な課題についてコラムを設け、自分の考えを深められるようにしている。 ○「いじめ問題」については「しない」「させない」「見逃さない姿勢」が系統的に学べるように教材とコラムが設けられている。発達段階に応じて「いじめ問題」の解決に向け、道徳性の育成ができるよう工夫されている。 <発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○全学年を通じて、特に「生命を大切に作る心」に重点を置き、発達段階に応じて、「誕生の喜び」や「臓器移植」「尊厳死」など、様々な観点から「命」について学び深めることができるようになっている。 ○「学びの広場」に小学校で定番教材とされているものが「学び直しの教材」として掲載されており、自分の考えを見直し、深める工夫がされている。 <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○教材ごとに「学びのテーマ」が設定されており、テーマに迫るために「道徳的な問題を明らかにする問い」「道徳的な価値について理解や自覚を深める問い」「自分に引き付ける問い、テーマ的な問い」の三つに分けて発問が設けられている。 ○視点を変える「見方を変えて」が設けられている。 ○文章による教材に加え、言語活動を重視した教材や漫画で見せる教材など多様な教材が設けられており、生徒の興味・関心を引き出し、心を揺さぶり、生徒の道徳に対する学習意欲が喚起されるよう工夫されている。
	資 料	○教科書の内容が4つのシーズンに分かれており、1年間を通じて、系統的に学べるようになっている。 ○教科書の最初と最後に「道徳の時間」の考え方が示されている。 ○教材ごとに「学びのテーマ」が設定されており、考える視点も明示されていることで見通しを持って授業に臨める工夫がされている。
	表記・表現	○内容項目をマークで示し、可視化されている。 ○カラーユニバーサルデザインへの配慮がなされている。 ○発達段階に配慮され、独自の光村明朝体が使用されている。 ○人権上の配慮がされている。
総 括		○「学びのテーマ」が設けられており、「考える観点」を基に考えを持ち、「見方を変えて」によって、多面的・多角的な考えに触れ、「つなげよう」によって自分の普段の生活を振り返るという流れが明確になっていることで道徳性が深められる工夫がされている。また、小学校での定番教材を掲載することで、「学び直し」として今と過去の自分の考えを比較し、自己の変化に気づく工夫がされている。

教科（ 道徳 ）

書名 項目		中学道徳 あすを生きる 番号 1 1 6 会社名 日本文教出版
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○「道徳科で学ぶこと」が配置され、4つの視点と内容項目が示されている。 ○身近な人物や生き方を取り上げており、自己を見つめ、人間としての生き方を深く考えることができるように配慮されている。 ○「自分に＋1」が設けられ、道徳的判断力や実践意欲と態度の育成が図られるように工夫されている。
特色	内 容	<現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○情報社会の倫理や情報セキュリティなどに関わる教材やコラムがユニット化されており、情報モラルについて深く理解することができる。 ○食育や防災教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育などの様々な現代的な諸課題について、教材やコラムが各学年でバランスよく配置されている。 <発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○1学年「であう」、2学年「みつめる」、3学年「ひらく」といった学年ごとのテーマが設定されている。 ○いじめ防止を全学年で重点項目とし、教材とコラムを組み合わせたユニットを複数配置し、多面的・多角的に考えるページも設けられている。 <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○参考例としての「学習の進め方」が設けられており、写真で対話的・協働的な学習場面が例示され、問題解決的な学習や体験的な学習が進める際の参考にすることができる。 ○対話的・協働的な学びのため、ペアトークやグループトークの学習形態が各所に示されており、話すことや聞くことを大切にしている。 ○別冊「道徳ノート」に自分の考えを書くことで、生徒が自らの成長を実感し、自分の生き方に自信や誇りが持てるように配慮されている。また、話し合いの際の友達の意見などをメモする欄が設けられており、多面的・多角的な学習の参考にすることができる。
	資 料	○授業の導入部から終末に至るまで生徒の思考の流れに沿った示唆や発問を設定し、自発的な思考を引き出そうとしている。 ○図版が大きく鮮明であり、迫力のあるページ構成となっている。 ○教材タイトルの部分に主な登場人物が紹介されており、教材を読み取る抵抗を緩和できるようになっている。
	表記・表現	○固有名詞等にはふりがながついており、読みやすいように配慮されている。 ○脚注・側注を充実させ、難解な語句や読み取りに必要な補足説明が丁寧である。 ○読みやすいまとまりで折り返すなど割り付けが工夫されている。 ○UDフォントを使用し、スムーズに読み進められるようになっている。
総 括		○本冊と「道徳ノート」との2冊構成となっている。「道徳ノート」を活用することで、生徒の成長の様子を継続的に把握しやすくなっている。「道徳ノート」には保護者記入欄も設けられ、家庭との連携を図ることも可能である。また、すべての教材に主題名が記載されており、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができる。配列も他教科や学校行事との関係が図りやすいものになっている。

教科（ 道徳 ）

書名 項目	中学生の道徳 明日への扉 番号 224 会社名 学研
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標との関わり	○教科書に主題名を表示しないことで、生徒自らが課題を発見し、解決する資質や能力を培うことを重視している。 ○教材の最後に、考えを深め、自己を見つめるきっかけの問いが示してある。 ○巻頭で自分を見つめ、巻末で一年間の学びを振り返ることで、一年間の自分の成長がわかるとともに、主体性や自尊感情を高められるようになっている。
特色 内 容 資 料 表記・表現	＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○キャリア教育、防災教育、社会参画、食育、消費者教育など、様々な現代的課題について全学年で積極的に対応している。特に、情報機器を日常的に用いる環境の中にいる生徒たちに対して、情報モラルに関する指導を充実させている。 ＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞ ○「いのちの教育」を全学年のテーマにしている。内容項目「生命の尊さ」の教材3点を用意し、さらに他の内容項目（よりよく生きる喜びなど）の教材を用いて複数の観点から「生命の尊さ」を多面的・多角的に考えることができる。 ○直接的または間接的アプローチで迫る多様な内容項目の教材を用いて、いじめなど心の問題に幅広い視点から対応できる力を育むことができる。自他の生命を尊重し、他者とよりよく生きることについて、多面的・多角的に考えられるようにしている。 ＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○一つのテーマに関連する複数の教材が連続しており、複数時間の授業を関連させることで異なる視点や内容項目から考えることで、多面的・多角的に考えを深めたり発展させたりすることができるようになっている。 ○主体的・対話的で深い学びを実現させるために3種類の特設ページのどれかが各 ○長く研究・評価されてきた教材を全学年4～6つ取り上げ、感動・共感とともに生徒の心を道徳の学習にひき込むことができるようになっている。 ○様々な分野で活躍する、今を生きる人たちの教材や、人生の足跡から辿る先人たちの教材から生き方を学べるようになっている。 ○日本全国の様々な地域に関係のある教材を掲載している。 ○教科書の大きさがA4サイズと大きく、絵や写真が映え、適度に余白もある。 ○巻頭にさまざまなテーマで分類された教材一覧を載せ、テーマを通して、生徒が主体的に考え、議論することができる教材が一目でわかるようになっている。 ○4つの視点ごとに色分けや、考えを書く場所にはマークと書き込み欄がある。
総 括	○「プラス思考」と「未来志向」を備えた生徒の育成を目指して編成されている。 本文より前に主題名を表示しておらず、教材の最後に生徒が考えを深め、自己を見つめるきっかけの問いの例として示している。特設ページの活用の仕方で、多様な学びの展開を考えることができる。「いのちの教育」を全学年の重点テーマとし、いじめを生まない力を育てることができる

教科（ 道徳 ）

書名 項目		中学生の道徳 自分をみつめる 考える のぼす 番号 2 3 2 会社名 廣済堂あかつき
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○道徳ノートが別冊になっており、教材ごとに生徒が自分を見つめたり、成長を実感できたりする工夫がなされている。 ○全ての教材に学習の発展的な広がりや深まりを促す「考えを広げる・深める」というコーナーを設けている。 ○自分の考えの深まりを振り返ることのできる「心のしおり」を設けている。
特 色	内 容	<現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○「情報モラル」について考えることのできる教材を全学年に掲載しており、発達の段階に応じた特集ページも設けている。 ○生命尊重を重視し、「生命の尊さ」「人権・いじめ防止」に関する教材が充実している。さまざまな角度から考察できる教材を各学年で多数掲載している。 <発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○生命尊重を最重点項目と位置づけ、内容項目「生命の尊さ」に関する教材を全学年3教材、3時間配当している。 ○学年が進むに従い、価値そのものを深く考え、哲学的に思考することができる教材や問いが精選されている。 ○全学年共通した登場人物を扱う教材を配置し、生徒が学年の発達の段階に応じて共感的に考えられる内容になっている。 <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○本冊・道徳ノートの2冊構成となっており、書くことを通して自問と内省へと導き、道徳的思考をいっそう深めることができるようにしている。また、教材ごとに「考える・話し合う」を設置し、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すための手がかりとなるような問いを、様々な視点から示している。 ○本冊では生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で考えを深められるよう、話し合いを促す「考える・話し合う」が提供されている。 ○フリーノートのページでは話し合いの記録が取れ、多様な学習に対応している。
	資 料	○物語教材だけでなく、詩やエッセイ、漫画や新聞記事を基に考える教材など、生徒の学習意欲を喚起する多様な教材を取り揃えている。また、本冊のすべての教材において、扱う題材や学習する道徳的価値に関わる格言、名言を掲載している。 ○教材の場面にあった写真や挿絵を掲載しており、落ち着いた色彩を使用している。「道徳ノート」は本冊とは別の内容が掲載されている。
	表記・表現	○漢字は当該学年までの配当漢字を使用している。また、未習の漢字にはすべてにルビを配している。難解な言葉や情報は脚注で解説している。 ○教材ごとに学習指導要領の4つの視点をマークと色で示している。また、教材の冒頭にマークと道徳ノートのページ数が記載されている。
総 括		○本冊・道徳ノートの2冊構成となっており、書くことを通して自問と内省へと導き、道徳的思考をいっそう深めることができるようにしている。教材ごとに「考える・話し合う」を設置し、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すための手がかりとなるような問いを、様々な視点から示している。先人や現代に活躍する人々の名言が、内容項目にそって掲載されている。

教科（ 道徳 ）

項目 \ 書名		道徳 中学校 1 生き方から学ぶ 道徳 中学校 2 生き方から見つめる 道徳 中学校 3 生き方を創造する	番号 2 3 3 会社名 日本教科書
教育基本法、学校教育法の下、小学校学習指導要領の教科の目標との関わり		○「考え、話し合ってみよう」が設けられており、理解を深める工夫がされている。 ○「心の成長を目指して」や巻末の「振り返り」のページを通して、自分の考えを深め、心の成長について考えることができる。 ○各学年の冒頭では「道徳科って何を学ぶの?」というガイダンスが掲載されており、道徳性の育成に向けた流れが示されている。	
特色	内 容	<現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○「LGBT」や「情報モラル」「障害者差別」「いじめ問題」「キャリア教育」などの現代的な課題の観点から教材が設定されている。「障害者差別」では障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶ「インクルーシブ教育」の理念に基づいている。 「いじめ問題」ではいじめを直接扱う教材に加え、「正義」「寛容」「人権」「人間愛」など、様々な教材を通して「いじめを許さない心」の育成がなされている。 <発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫> ○価値の多様性を受け入れる寛容な心の内容項目では、1年「二つの足跡」、2年「あなたが見えているもの」、3年「あなたははどう思う」が、ワーク方式で設けられており、考えたことが蓄積され、比較できるようになっている。 ○全学年で「リョウとマキ」の教材が掲載されており、ストーリーに連続性を持たせている。 <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○教科書の冒頭に「道徳科って何を学ぶの?」のページが設けられており、学習の流れをつかむための工夫がされている。 ○教材ごとに「考え、話し合ってみよう そして深めよう」のコーナーが設けられており、考え、議論するための発問がされている。 ○教材の最後で主人公が悩んでいる場面など、生徒が自然と考え出す工夫がされている。 ○日常に起こり得る題材や先人、偉人に関する教材が掲載されている。	
	資 料	○多面的・多角的な見方・考え方を身に付けられるような教材が配置されている。 ○新たに書き下ろされた教材が多く掲載されている。 ○1年生では「自己理解」、2年生では「自己啓発」、3年生では「自己実現」のテーマを設け、現代社会に想定される葛藤を通して、道徳的問題に向き合わせるとともに、キャリア教育との関連もなされている。	
	表記・表現	○教材ごとに内容項目が表記されている。 ○学習指導要領の内容項目順に教材が配置されている。 ○各学年の巻末には、各教材と学習指導要領との対応表が掲載されており、巻末から逆引きすることで、わかりやすく教材を選択できる。	
総 括		○現場を経験している教師達によって執筆されたオリジナル教材も多く、実際の授業を想定して意図的に作られたものも多い。現代的問題に加え、キャリア教育や多様な教材が掲載されているのも特徴である。各教材で設けられている「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」に加え、コラムや問題解決学習を意図した教材が設けられており、「考え、議論する道徳」が実現できるよう工夫されている。	